

研究報告

初回基礎看護学実習で看護学生が観察した看護活動からの学びの意義

近 藤 裕 子¹⁾, 南 妙 子²⁾

¹⁾徳島大学医学部保健学科, ²⁾香川大学医学部看護学科

要 旨 看護学生が初めての臨地実習で、看護師の看護活動内容の観察と、看護活動を通しての学びについて、学生のレポートを分析した。その結果、学生は実習時間内で、勤務している看護師の行動を中心に観察している。そのため、患者に看護師がどのように関わりをもっているのかまでは、観察できていなかった。さらに看護活動を観察することから学んだことは、看護を実施するには多様な能力が必要であることを重点的に学習していた。この学びからは、看護師が学生の臨床モデルとなり、看護についての考えを深める意義をもっている。

キーワード：初回基礎看護学実習、看護活動、観察、学び、看護学生

はじめに

看護学生が臨地実習で学ぶ内容に関する研究は、看護学の多様な領域にわたっており、実習記録の分析¹⁻³⁾や、レポート内容⁴⁾、課題や感想の分析⁵⁻⁷⁾などがみられる。

基礎看護学実習における学びについても、日常生活援助⁸⁾、さらには看護過程⁹⁾などが報告されており、看護学生は臨床の場で多くの内容を学んでいる事が分かる。看護学生が臨床をどのように、どれだけ観察することができ、自らの看護に対する関心を高めているかを把握することは、実習指導上重要であると考え。先行研究からは、看護概念の拡大¹⁰⁾や、主体性を高める行動^{11,12)}、学習への動機付け¹³⁾などの成果が報告されている。しかし、看護学生が臨床の現場をどのように観察し、何を学んだかに関する先行研究は見あたらなかった。

そこで今回、看護学生が観察した看護活動内容から、学生は何を学んだか、さらに学びの意義は何なのかについて、学生のレポート内容から明らかにした。

目 的

看護学生が初回基礎看護学実習において観察した臨床

2006年1月10日受理

別刷請求先：近藤裕子，〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15
徳島大学医学部保健学科

の看護活動の内容と、そこから何を学んだかについてその意義を明らかにし、次回からの臨地実習の指導資料とする。

方 法

1. 対象

2002年6月に行った初回基礎看護学実習を履修したA大学1年生60人のうち承諾が得られた58人(96.7%)である。

2. 方法

初回基礎看護学実習において、臨床で行われている看護活動について何を観察したかのレポートを課した。58名のレポート内容を分析対象とし、学生が観察した臨床の看護活動と、そこから何を学んだかについて記述している文章を取り出し、研究者間で共同認識できるまで検討し、命名した。研究期間は2002年6月17日～21日の5日間である。

3. 倫理的配慮

学生には、採点終了後にレポートの分析とその結果を公表すること、個人名は特定されないこと、研究協力を拒否してもその後の指導や評価に影響しないこと、結果を次回からの臨地実習に活かしたいことなどについて研究者以外の第三者が説明し、承諾を得た。

初回基礎看護学実習の位置づけと内容

[看護学概説]の実習として位置づけられており、[看護学概説]で学習した内容を臨地で統合する実習である。実習は1年生の6月に1週間の病棟実習を行っている。実習目標は、看護の対象である入院患者の生活環境を見学し理解を深めること、看護についての理解を深めるために、既習の看護理論と実習で見学し体験したことを統合し、考察することである。目標達成のために①入院患者の生活環境の実態の把握、②医療チームメンバーの各々の役割とメンバー間の連携、③医療チームにおける看護師の位置・役割、④見学した看護活動とその目的、⑤看護の概念モデルを比較照合資料として、看護の構成要素の関連を分析・考察、⑥今後学習する支持科目や専門科目の学習の必要性、⑦自己学習を動機付ける課題の発見、の7行動目標を設定している。実習の展開は、オリエンテーション、事前学習、1.5日の実習、事後学習、発表で組立てており、事前事後学習は自己・グループ学習を行う方法を採用している。

今回は、目標の一つである「見学した看護活動とその目的」の課題を分析した。先行科目としては、心理学概説、文学と人間、人間の生物学などの支持科目の一部と、環境生態学、人体機能的形態学、認知行動情報生理学などの専門支持科目が進行中である。実習時期はこれらの科目開講10週間後になる。

結 果

看護活動に関する学生の記述は2通りに分類できた。一つは看護活動全般を観察し記述している者21名、もう一つはそれぞれの役割の異なるナースの活動を記述した者37名であった。

看護活動全般を記述した21名の内容からは76件の活動が抽出できた(表1)。その内容はバイタルサインの測定(13、以下カッコ内は件数を示す)、環境整備(9)、与薬の準備(8)、カンファレンス(7)、清潔への援助(4)、配膳・下膳(4)、情報収集(4)、看護計画の作成(4)、申し送り(4)、確認作業(3)、コミュニケーション(3)、部屋割や入浴順番表の作成(2)、検査や手術の説明(2)、手洗いの徹底(2)、ケアを行いながらの観察(2)、身体面の援助(1)、心理面の援助(1)、器具の洗浄(1)、医師や他部門への連絡(1)、家族へのケア(1)であった。

役割別に記述した37名の看護活動は134件あった(表2)。

プライマリナース、チャージナース、フリーナース、早出や遅出の看護活動があげられていた。プライマリナースの活動は40件が記述されており、それらは情報交換(5)、検温(4)、患者への説明(3)、薬の準備・確認(3)、コミュニケーションをとり患者に気を配る(3)など、22項目が記述されていた。チャージナースに関しては31件の記述があり、他部門への連絡・調整(6)、電話の取り次ぎ(5)、チャート・資料・書類の作成と整理(4)などを含む16項目であった。フリーナースの活動としては12件の記述があった。その内容は、入浴の準備と介助(2)、点滴の準備(2)、患者搬送(2)などの9項目であった。早出・遅出の活動は最も多い51件の記述があり、フリーナースと共同してプライマリナースを補助する(5)、記録(3)、情報収集(2)や情報交換(2)などの36項目であった。

次に看護活動からの学びに関する学生の記述は40件抽出できた。その内容は、看護師に求められる能力(11)、精神的援助や患者に安心感を与え支えになることの重要性(7)、感染や事故防止対策への取り組み(7)、患者のことを考えたケアの提供(4)、看護が目指す健康回復への援助(4)、患者との対応時の看護師の姿勢(3)、看護師の仕事が変化している(2)、患者-看護師関係(1)、看護師間の支え合い(1)であった(表3)。

表1 学生が観察した全般的な看護活動内容

n=21 76件

| 活 動 | 項 目 |
|--------------|------------------|
| 看 護 活 動 (76) | バイタルサインの測定 (13) |
| | 環境整備 (9) |
| | 与薬の準備 (8) |
| | カンファレンス (7) |
| | 清潔への援助 (4) |
| | 配膳・下膳 (4) |
| | 情報収集 (4) |
| | 看護計画の作成 (4) |
| | 申し送り (4) |
| | 確認作業 (3) |
| | コミュニケーション (3) |
| | 部屋割や入浴順番表の作成 (2) |
| | 検査や手術の説明 (2) |
| | 手洗いの徹底 (2) |
| | ケアを行いながらの観察 (2) |
| | 身体面の援助 (1) |
| | 心理面の援助 (1) |
| | 器具の洗浄 (1) |
| | 医師や他部門への連絡 (1) |
| | 家族へのケア (1) |

() 件数

表2 看護師の役割別看護活動内容

n=37 134件

| 活 動 | 項 目 |
|---------------|---|
| プライマリナース (40) | 情報交換 (5) 検温 (4) 患者への説明 (3) 薬の準備・確認 (3) コミュニケーションをとり患者に気を配る (3) 看護計画の確認 (2) 注意事項の確認 (2) 申し送り (2) 環境整備 (2) 事務作業 (2) 病室巡視 (1) 患者の不安を軽減する援助 (1) 明るい雰囲気作り (1) 清拭 (1) おむつ交換 (1) シーツ交換 (1) 入院患者へのオリエンテーション (1) カンファレンス (1) 信頼関係を築く (1) 面会人への対応 (1) 入室前の消毒 (1) 配膳 (1) |
| チャージナース (31) | 他部門への連絡・調整 (6) 電話の取り次ぎ (5) チャート・資料・書類の作成と整理 (4) 入退院の管理 (3) 看護師・医師との情報交換 (2) チャートの搬送 (1) 薬の確認 (1) 看護師への助言 (1) 検温 (1) 看護師・患者の相談役 (1) 予約の確認 (1) 患者への説明 (1) 検体の作成 (1) 看護サマリー作成 (1) 医師と患者の食事・部屋割りについて話し合い (1) 看護ワークシートへの記入 (1) |
| フリーナース (12) | 入浴の準備と介助 (2) 点滴の準備 (2) 患者搬送 (2) 環境整備の準備 (1) 物品の整理 (1) ナースコールへの対応 (1) 麻薬の受け取り (1) 配茶 (1) 検体搬送 (1) |
| 早出・遅出 (51) | フリーナースと共同してプライマリナースを補助する (5) 記録 (3) 情報収集 (2) 情報交換 (2) 観察 (2) 人間関係の構築 (2) 患者とのコミュニケーション (2) 環境整備 (2) 点滴の準備・確認 (2) 患者の状態把握 (2) 精神的な支援 (2) 配膳・下膳 (1) 事務的業務 (1) 洗髪 (1) ひげそり (1) 検温 (1) 医師と患者家族、看護師への連絡・調整 (1) シーツ交換 (1) 寝衣交換 (1) チャートの搬送 (1) チャートの整理 (1) 検査結果の確認 (1) 患者のケア (1) ワークシートからの情報の拾い出し (1) 使用器具の準備 (1) 書類の整理 (1) ナースコールへの対応 (1) 痛みのある患者への援助 (1) プライバシーの保持 (1) 患者への説明 (1) 排泄介助 (1) 体位変換 (1) 吸引 (1) リハビリテーション (1) 排泄物の処理 (1) 与薬・検査オーダー書の作成 (1) |

() 件数

表3 観察した看護活動からの学び

n=58 40件

看護師に求められる能力 (11)
 精神的援助や患者に安心感を与え支えになることの重要性 (7)
 感染や事故防止対策への取り組み (7)
 患者のことを考えたケアの提供 (4)
 看護が目指す健康回復への援助 (4)
 患者との対応時の看護師の姿勢 (3)
 看護師の仕事が変化している (2)
 患者-看護師関係 (1)
 看護師間の支え合い (1)

() 件数

考 察

学生が観察した看護活動は、その日の勤務者全体の活動内容と、一人の看護師の活動をタイムスタディ的に観察している者との区分される。これは学生が看護活動の理解には、どのような方法が最も適しているのかをグループごとに考え、実習を行っている結果である。

学生が観察した看護活動の内容は、バイタルサインの測定や環境整備など、学生が目につく看護師が何を行っているかが分かる範囲内の行動である。プライマリナースは受け持ち患者を中心にケアや処置を行い、チャージナースは医師、看護師、他部門との連絡、電話やナースコールへの対応などを中心に行っている。フリーナースや早出・遅出のナースは、プライマリナースやチャージナースの仕事以外の周辺業務をカバーしていると観察している。しかし、看護師が日常生活の援助を行っている場面の観察や、患者を中心として職種間や他職種との間での情報交換、コミュニケーション、精神的援助を行っている場面の観察内容については、抽出件数が少ない傾向がみられる。例えば、患者-看護師関係の中で、どのように看護師が関わりながらケアや、マネジメントを行っているのかについて踏み込んだ観察まではできていない。その上、看護師が何を行っているかの確認行動もとれていないようである。学生は初めての臨床で、具体的に何の目的で何を行っているか、看護活動の内部までを観察することは難しい。しかし、今回の実習成果としては、既習の活動内容の一部を見学し、観察できている。今後、学生が深く看護活動内容を観察し理解するためには、学生自身がそのような状況に気づくような、教員の関わり方や支援の必要性が示唆された。

学生が観察した看護活動からの学びに関しては、看護

師に求められる能力をあげた者が多い。看護師はたくさんの情報をみて、鋭い観察を行い情報をとっている。その場合、常に患者との信頼関係や、コミュニケーションを大切にしながら、細やかな配慮を行っており、そのような能力が看護師には必要であることを学んでいる。さらに、看護実践には患者が安心して医療が受けられるよう、患者の支えになったり声をかけるなど、きめ細かい配慮や心理的援助の重要性も学んでいる。医療事故や感染に対して、ダブルチェックや手洗いなどで防止策がとられていることも観察している。学生は、看護技術の科目は未履修であるが、実際に医療事故防止策が日々の活動の中で行われていること、また看護師は一行為一手洗いを実施していることを臨床で見聞きし、未学習の内容に対しても学びを拡大している。看護師が患者にどのようなケアを提供しているのか、看護が目指しているのは患者の何なのかについても、学内で学習した内容を念頭におきながら、知識と実践の場で行われていることの統合を行っている。

学生は、臨床で看護師の活動を観察することにより、看護の目的を再確認し、看護師に必要な能力や姿勢などについて学習していることが明らかとなった。

看護活動の実際を見学し学生が学んだ意義を考えると、学生は講義での学習を臨地の場面で統合するだけでなく、看護師のケアする姿勢から、看護活動についての理解を深めている。それは、看護師が学生の臨床モデルとなっていることを示している。このことは、入職して経験の浅い看護師は、先輩看護師がロールモデルとしての役割を果たし、学習への意欲を高めていた^{13,14)}との結果と同様である。学生は、看護師の行動や態度から、自分の未来を重ね合わせ、将来このような看護師になりたい、ケアを提供したいとの希望を膨らませながら、看護についての考えを深めることができている。これが今回の実習からの学びの意義といえる。

結 論

初回基礎看護学実習において、看護学生が観察した看護活動の内容とそこからの学びについて分析した。その結果より、学びの意義について次の事が明らかとなった。

1. 看護師がおこなっている看護活動全体を観察し記述した結果から、76件の活動が抽出され、20項目に分類できた。
2. 看護師の看護活動を通しての学びは40件が抽出で

き、9項目の内容に分類できた。

3. 看護学生は、臨床で看護師の看護活動を観察することにより、看護の目的を再認識したり、看護師に必要な能力や姿勢などについて学習していた。

これらの学びから、学生は看護についての考えを深めており、これが学びの意義である。

文 献

- 1) 海法澄子, 森下裕子: 看護教育における在宅看護論実習の検討—実習記録による分析, 神奈川県立看護教育大学校紀要, 24, 66-72, 2001.
- 2) 小塩泰代, 水谷聖子, 岡部千恵子: 「地域看護学見学実習」に置ける学びと今後の課題, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 14, 1-11, 2003.
- 3) 石井くみ子, 菅沼真由美: 見学実習の対象・看護の学びの検討—実習記録の分析から, 日本看護学会論文集31回看護教育, 12-14, 2001.
- 4) 大池美也子, 末次典恵: 集中治療室の見学実習における看護学生の学び—看護学生によるレポートの分析から—, 九州大学医学部保健学科紀要, 3, 77-83, 2004.
- 5) 久代和加子, 南川雅子, 亀井智子: 老人保健施設で行う老年看護学実習における学びの課題, 聖路加看護大学紀要, 27, 52-58, 2001.
- 6) 竹村真理: 小児看護学実習における学生の学びの実態について—学生の臨地実習記録の感想と家族・看護婦・学生へのアンケート調査から, 新潟大学医学部保健学科紀要, 7(2), 197-203, 2000.
- 7) 柿原加代子, 松田日登美, 原田真澄: 基礎看護学実習(見学実習)におけるレポート記述内容の質的分析—環境の援助技術の記述内容の分析から, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 15, 1-13, 2004.
- 8) 相原ひろみ, 徳永なみじ, 岡田ルリ子 他: 看護学生の基礎看護学実習における学びの分析—日常生活援助を中心とした実習による学びより, 愛媛県立医療技術短期大学紀要, 14, 33-38, 2001.
- 9) 吉岡一実, 片岡智子, 中西貴美子 他: 基礎看護学実習Ⅱの振り返り『看護過程』の学習効果を学生の実習記録から分析して, 三重看護学誌, 3(1), 123-132, 2000.
- 10) 吉岡一実, 片岡智子, 中西貴美子 他: 学生側評価による基礎看護学実習の学習効果—看護概念の拡大に影響を及ぼす因子, 看護教育, 41(10), 866-871, 2000.
- 11) 金田代理子, 岡本美佐江, 平野千穂美 他: 学生自身の意志決定と主体的行動の関連—基礎看護学第Ⅰ期実習後の調査から, 看護展望, 25(11), 1284-1288, 2000.
- 12) 村山由子, 持木香代, 久保陽子: 基礎看護学実習の効果を考える(第一報)—有効な基礎看護学見学実習のあり方についての一考察, 神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要, 1, 61-69, 2000.
- 13) 谷脇文子, 近藤裕子: 卒後2~3年目の看護師の臨床能力習得に関する研究—臨床の出来事からの学び, 第33回日本看護学会論文集看護管理, 170-172, 2002.
- 14) 谷脇文子, 近藤裕子: 卒後2~3年目の看護師の臨床能力の発展における経験の振り返り, 第34回日本看護学会論文集看護管理, 115-117, 2003.

*The significance of information learned from nursing activities observed
by nursing students during initial basic nursing practical training*

Hiroko Kondo¹⁾, and Taeko Minami²⁾

¹⁾*Mejor in nursing, School of Health Sciences, The University of Tokushima, Tokushima, Japan*

²⁾*School of Nursing, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan*

Abstract This study involved analysing reports from students pertaining to what they learned from observing nurses' nursing activities during their first practical training, as well as through their own nursing activities.

As a result of this analysis, the following can be inferred. Students mainly observe the actions of nurses on duty during the hours of the students' practical courses. Because of this, they were not able to fully observe the ways in which nurses interact with patients. They also learned intensively from observing nursing activities that a diverse range of skills is needed to actually provide nursing care. This shows that nurses provide a clinical model for students, and has the significance to further consideration of nursing.

Key words : Initial basic nursing practical training, nursing activities, observation, learning, nursing students